



長崎県

OMURA CITY

大村市

長崎県
大村市

長崎県の中央部に位置する大村市は、東に多良山系、西に大村湾を臨む豊かな自然に囲まれたまちです。

大村の歴史は古く、日本初のキリシタン大名「大村純忠」が、初の公式ヨーロッパ訪問団「天正遣欧少年使節」をローマに派遣しました。

また、大村藩は幕末勤王派に属し、近代日本の礎を築いた渡邊昇や楠本正隆をはじめ、幾多の偉人を輩出しました。

長崎県の空の玄関口である長崎空港や、市内を南北に貫く長崎自動車道といった交通の利便性から、大変住みやすいまちとなり、人口が着実に増加している都市として、発展を続けています。

昨年10月には、県立長崎図書館と大村市立図書館による一体型図書館「ミライオン図書館」と「大村市立歴史資料館」との複合施設「ミライオン」が開館しました。

さらに、令和4年度には、九州新幹線西九州ルートが開通し、新たな新幹線駅も開業します。半径2.5km圏内に、空港、新幹線、高速道路がある高速交通の要衝として、さらなる発展が期待されています。



昨年開館したミライオン



天正遣欧少年使節顕彰之像



2,000本の桜が咲き誇る大村公園



花菖蒲

また、毎年、春には「日本さくら名所百選」の地に選ばれている大村公園で、国指定天然記念物であるオオムラザクラをはじめ、約2,000本の桜が咲き誇り多くの観光客でにぎわいます。

初夏にかけては、約30万本の花菖蒲も見頃となる花のまち・大村に、ぜひお越しください。

大村市
公式ホームページは
こちらからどうぞ！



～大村市新幹線開業アクションプラン～ 九州新幹線西九州ルートの開業に向けたまちづくり

九州新幹線西九州ルートは、武雄温泉駅～長崎駅間の約66kmがフル規格新幹線として整備されており、令和4年度に開業することとなっています。

大村市にも新幹線の駅が新設されることから、新幹線開業という大きなチャンスを活かし開業効果を最大限に広く波及させることを目的に「大村市新幹線開業アクションプラン」を昨年3月に策定しました。

現在、開業に向け、市全体での盛り上げやおもてなしなどの様々な取り組みを市民一丸となって進めています。



新幹線新駅（仮称）新大村駅

大村市では、新幹線開業に向け、平成28年度から土地区画整理事業に着手し、新幹線新駅周辺を新たな都市拠点として整備を進めています。特に新幹線新駅前の公有地約3・2haには、民間活力の導入により賑わいの場を創出することとしており、現在、開発事業者の公募に向け、導入する機能などの検討を行っています。

このようなハード整備に加え、ソフト事業として取り組んでいるのが「大村市新幹線開業アクションプラン」です。

このプランでは、大村市人口ビジョンでの目標である「2025年に人口10万人」を実現するために、新幹線の開業という大きなチャンスを最大限に活用し、「交流人口の拡大」をはじめとする様々な新幹線開業効果をより大きなものとすることを目指しています。

「定住人口」を増やすためには大村が「行きたい」、「働きたい」、「住みたい」と思ってもらえるような魅力あるまちとなることが重要です。

また、観光客などの「交流人口」や定期的に大村を訪れる「関係人口」を増やすことで経済活性化へとつながる取り組みも必要です。

これまでは「素通り」「だったまち」で、交流や体験の「ストーリー」を創り出し、滞在するまちとし、最終的に住む場所として選んでもらえるように「素通りからストーリーのあるまち・大村」をスローガンに観光から



新幹線駅周辺

定住へ繋げる流れを創り出す取り組みを実施していくこととしています。

実施する取組事業は、「プロモーション」、「観光商品づくり」、「移住・定住促進」の3つのテーマに基づき、市内の若手を中心とした策定委員会が36の取組事業を考えだしました。

現在、関係する経済・観光団体などが幅広く連携し、力を合わせ、市民一丸となって取り組んでいます。

令和4年度の開業に向け、多くの方に大村市に足を運んでもらえるように「魅力ある大村」を目指していきます。

～安全で安心な内陸型の工業団地～

第2大村ハイテックパーク分譲中

平成31年4月、新しい工業団地「第2大村ハイテックパーク」の分譲を開始しました。
現在、分譲地4区画のうち、1区画2社の立地が決定し、既に工場の建設を始められた企業もあります。



東側から撮影した第2大村ハイテックパーク

長崎県のほぼ中央に位置し、多良山系を東に仰ぎ、西に波静かな大村湾を望む大村市は、山と海に囲まれた豊かな自然環境がありながら、長崎空港、高速道路IC、新幹線新駅（令和4年度開業）など、交通の要衝としての都市機能が揃っており、これまで県央の中核的な都市として着実に発展しています。

同工業団地は、長崎自動車道大村ICから約5km、長崎空港から約10km、九州新幹線西九州ルート（長崎ルート）新大村駅（仮称）から約6kmに位置し、絶好の交通アクセス

が魅力です。

分譲地は4区画約12・4haで、上水道、公共下水道のほか、工業用水道（団地内供給量500m³/日）も完備し、企業活動を行うには良好な立地環境を整えています。

地震が少ない地域特性と、津波や塩害に対しても高い安全性がある内陸型の工業団地であるため、地震リスクのある日本において、企業のBCP（事業継続計画）対策には最適地であるといえます。

市内には工業高校、周辺には高専、工業系の大学もあり優秀な工学系の人材が豊かで確保しやすくなっています。

隣接する大村ハイテックパークやオフィスパーク大村には、シリコンウエーハの製造をはじめとして、液晶用フィルム製造、電子機器製造などの高度技術型企業のほか、自動車部品関連企業等が立地しています。加えて、長崎県工業技術センター、長崎県建設技術研究センター、長崎県環境保健研究センターなどの県の施設が立地し、ハード・ソフト両面から技術の高度化を

支援しています。

新たな雇用の場を創出することで、若者の流出を防ぐとともに、地域産業の活性化に繋げ、「行きたい！働きたい！住み続けたい！しあわせ実感都市大村」を目指しています。



第2大村ハイテックパークの区画平面図

団地概要

所在地	大村市雄ヶ原町1723番地1～4,14
団地内道路幅員	9メートル（うち歩道2メートル）
1㎡当たりの単価	10,000円
インフラ整備	<ul style="list-style-type: none"> ● 給水 上水道 ● 工業用水 500㎡（1日当たり） ● 排水 下水道（生活雑排水） ● 電力 普通高圧6.6キロボルト（九州電力） ● ガス プロパンガス ● 通信 高速光通信（NTT西日本）